様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月　 ９ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０２５６５

研究課題名（和文）「訓点資料入門」の作成

研究課題名（英文）Making　an Introduction to Kunten Manuscripts

研究代表者
大槻　信（OTSUKI, Makoto）

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：６０２９１９９４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、はじめて訓点資料に触れる人に向けた「訓点資料入門」を作成することを目的とする。同時に、その「入門」を用いて大学院生などの若手研究者を育成し、その若手研究者と共同で訓点資料の原本実地調査・研究を行うことを目的とする。「入門」を教育に実用することにより、プロトタイプの「入門」を作成し、その改訂を進めた。同時に若手研究者育成と研究の進展を目指す。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study is making an introduction to Kunten Manuscripts for Kunten beginners. Through this study, I made a prototype of an introduction and taught Kunten beginners with the text. Then, getting them to the library which has old manuscripts, I made them to read Kunten manuscripts. Basing on these experiences, I revised the introduction several times.

研究分野：国語学

キーワード：訓点資料

１．研究開始当初の背景

訓点資料は日本語の研究において、欠くことのできない極めて重要な資料群である。とりわけ、平安時代の日本語を究明するための資料として、最大の材料を提供してきた。日本語史や日本古典文学の研究において、訓点資料を全く利用しないことは、今日ほとんどあり得ない。中国文学、中国哲学、日本史学、仏教史学、美術史学など周辺分野の研究者からも関心が高まっている。また、「訓読」は日本にのみ見られる現象ではないことから、近年、訓読を東アジア全体で捉える動きが加速している(金文京『漢文と東アジア―訓読の文化圏』（岩波書店,2010）など)。韓国における訓点資料研究は、2000 年代の点吐口訣資料発掘を契機として、日本での訓点資料研究をモデルとすることで急速な進歩を見せた。そのような背景の中、海外の研究者も日本の訓点資料に注目している。日本語・日本語史・日本文学関係の研究者・学生にとってはもちろんのこと、周辺分野の研究者や海外の研究者にとっても、「訓点資料入門」の必要性がきわめて高い。

研究代表者は 2008 年に「訓点資料入門」（奈良女子大学、研究業績 13.がその講演記録とレジュメ)、2013 年に「日本訓点資料提要」（復旦大学、研究業績 6.）という二種の講演を行ったことがある。主として文学研究者に向けた講演であったが、講演後の感想で最も多かったのは、訓点資料に関する話しを今回はじめて聞いた、自分の研究にもたいへん役立ったというものだった。訓点資料に関する知識が様々な分野で必要とされながら、それを得る機会が少ないことを物語っていよう。

研究代表者はこれまで、演習等の授業で訓点資料を繰り返し取り上げてきた。受講する学生の多くは授業開始時に訓点資料についての知識を全く持たない。しかし、数回のイントロダクションを経れば、何とか訓点資料を読めるようになる。訓点資料の利用は、適切な手ほどきさえあれば、それほど困難なことではない。それがきわめて困難なこととして一般に認識されているのは、ごく基本的な知識・情報が共有されていないためである。例えば、ヲコト点の種類をどう見分けるのか。異体の片仮名を読むために、どのようなツールがあるのか。和訓の語形を確かめるには何を調べればよいのか。訓点資料の文法についてはどの研究書を見ればよいか。こういった基本的な問いに答えてくれるまとまった情報が存在しないのである。漢文「訓読」入門はいくらも存在するが、「訓点」入門はない。

２．研究の目的

以上のような状況をうけ、訓点資料を利用・読解するための基本的な知識をコンパクトにまとめた「訓点資料入門」を作成したいというのが本研究の目的である。

研究代表者は基盤研究（C)「訓点資料注釈の作成」（平成 23 年度～25 年度）において、特定の訓点資料に注釈を付すことで、訓点資料の手引きとしての機能も担うことを企図した。その研究成果をうけ、訓点資料初学者にとって必要な事項を網羅した、より包括的な「訓点資料入門」を完成させたい。

作成された「訓点資料入門」はその有効性を実地に検証されるべきである。訓点資料に触れたことのない大学院生などの若手研究者に「入門」を利用して学習してもらい、その後、訓点資料の調査・解読・研究をその若手研究者と研究代表者とが共同で行うことが望ましい。そのような場を提供することが、本研究のもう一つの目的である。

より具体的には、研究期間内に以下を達成することを目的とする。

○「訓点資料入門」を作成する。

訓点資料の調査・研究に必要な基礎的知識を網羅し整理した、簡便なガイドの作成を目指す。

○訓点資料の原本実地調査を行い、同時に「訓点資料入門」を改訂する。

若手研究者の基礎教育に「訓点資料入門」を用いることで、若手の育成を図り、同時に「入門」改訂の機会とする。

「訓点資料入門」により教育を受けた若手研究者を伴い、京都大学附属図書館・京都大学総合博物館ならびに高野山大学図書館を中心に調査する。これらには多くの未調査訓点資料が収蔵されているためである。

昨年、勧修寺所蔵の聖教・文書の全体が京都大学総合博物館に寄託された。研究代表者は勧修寺聖教文書調査団の一員であり、調査団から聖教全点の訓点確認を依頼されている。全点調査というまたとない機会を利用し、訓点確認作業を通して、「訓点資料入門」のブラッシュアップと若手育成を図りたい。

３．研究の方法

本研究では上記の目的を達成するため、以下の研究を行う。

１.「訓点資料入門」の作成

訓点資料の調査・研究に必要な基礎的知識を網羅し整理した、簡便なガイドを作成する。

２．訓点資料の原本実地調査

大学院生など若手研究者の教育に「訓点資料入門」を用いることで、「入門」改訂の機会とする。同時に、教育を受けた若手研究者を伴い、訓点資料の原本実地調査を行う。

以下、上記について具体的に説明する。

１.「訓点資料入門」の作成

「訓点資料入門」作成のためには、①先行研究の集成・整理、②「入門」に必要となる内容と構成の検討、③「入門」の作成、④実際の使用とフィードバック、が必要である。

①については、「入門」の材料・参考となる先行研究を収集することに加え、主たる訓点資料の影印・訓読・研究の一覧を作成したい。また、ヲコト点・片仮名・音韻・表記・文法など訓点資料の諸要素に関する先行研究の整理を行う。

②については、先に述べた基盤研究（C）2011-13 年度「訓点資料注釈の作成」の研究成果、講演「訓点資料入門」の講演内容、および、訓点資料を取り上げた演習等でのイントロダクションを下敷きに、「入門」にとって必要な内容とその構成を検討する。あわせて、大学院生などから入門として必要な要件をヒアリングする。（研究代表者自身は、授業などで訓点資料について教わった経験を持たない。寺院等の資料調査に参加する中で、訓点資料の扱い・読み方を見よう見まねで身につけた。自分が独学であればこそ、初学者に情報として何が必要なのかがよくわかる。）

③の「入門」作成にあたっては、初学者・独学者向けであることを意識し、網羅的な内容でありながら、できるかぎりコンパクトでわかりやすい「入門」を目指す。また、「入門」には、訓点をもとにどのようにして読み下し文を作成するのか、その具体例が示されるべきである。基盤研究（C）「訓点資料注釈の作成」によって作成した特定の訓点資料に対する詳細な注釈を、「入門」の一部に含めることも計画している。

④については、次項「２．訓点資料の原本実地調査」で説明する。

④のフィードバックを経て完成した「訓点資料入門」を、パンフレットのような形態で公表することを計画している。若手研究者の他、周辺分野の研究者、海外の研究者にも配布したい。

２．訓点資料の原本実地調査

訓点資料の原本実地調査が本研究のもう一つの中心である。調査に先立ち、プロトタイプの「訓点資料入門」を用いて、大学院生など若手研究者に指導を行う。その上で、研究代表者と若手研究者とが共同で訓点資料調査を行う。その過程を通して、「入門」へのフィードバックを得、「入門」の改訂に役立てる。試用と改訂を繰り返すことで、「入門」をブラッシュアップし、完成度を高めていく計画である。

具体的には、京都大学、高野山を中心に、原本を調査することで、書誌的データを得、訓点資料としての実態を調査し、記述する。その調査に、大学院生など若手研究者に参加してもらうことで、研究を加速し、同時に若手育成の場としたい。また、可能な範囲で、資料の撮影も行う予定である。高性能デジタルカメラを用い、また、そのデータを NAS（LAN 接続の大容量 HDD）等に蓄積することで、研究を効率化する。

４．研究成果

本期間中に訓点資料入門の実用と改訂を進めた。その間、若手の研究参入をはかり、訓点資料入門の実用・改訂を進める目的で、若手を伴った寺院等における原本実施調査を行った。たとえば、高山寺（調査団による調査に大学院生・卒業生などを同伴し、撮影を中心に資料調査を進めた）、勧修寺（卒業生などを同伴し、聖教資料の全点について訓点の確認を行い、目録化を完了した）、高野山大学図書館（大学院生を伴い、寄託書を中心に調書を取る調査を複数回行った）などである。また、基礎的な作業として、京都大学所蔵の訓点資料の目録作りを進めた。

●訓点資料入門

初心者が訓点資料を調査する場合、ヲコト点の種別の判定が難しく、そこでつまずくことが多い。そこで、以下では、「訓点資料入門」のうち、ヲコト点の判別法について述べた部分を引用する。このような内容を学んだ上で資料に当たれば、判定が可能になることが多い。

○ヲコト点略式判別法

本来は資料全体を解読しながら、ヲコト点図を自ら作成する（用例から帰納する）。しかし、実際の原本調査にあたって、それだけの時間をかけられることは少ない。帰納法による場合、原理的には、資料の始めから終わりまで、全てのヲコト点について確認が必要ということになる。それでは、あまりに膨大な時間を要する。

また、実際に資料調査をしてみると、あらゆる点種がまんべんなく現れるというわけではない。よく使われるヲコト点の種類はかなり限られている。よく現れるのは、

西墓点（第一群点）　園城寺
喜多院点（第二群点）　興福寺法相宗・法隆寺・中川成身院・浄瑠璃寺・高野山
東大寺点（第三群点）　東大寺・醍醐寺・高野山・勧修寺・石山寺
中院僧正点（第三群点）　高野山中院流
円堂点（第五群点）　仁和寺・高野山
宝幢院点（第七群点）　延暦寺

などであろう。　中でも東大寺点・円堂点による加点資料が多く現存している。

とすれば、さしあたり、これらのどれかに該当しないかどうかを探ってみることで、ある程度の当たりをつけることは可能である。大概が使っているのは以下のような方法である。

1.資料のうち、加点の周密な部分を探し出す。(多くの場合、巻首)
2.その部分の漢文を読解する。
3.その上で、テニヲハノといった頻用される助詞が差されていると強く推定される箇所を見出す。
4.この点は「テ」であろうと推定できれば、同じ位置に差されている点を探し、検証する。
5.それを、テニヲハノについて繰り返す。
6.【別表　星点位置一覧】(掲載略)を見る。⇒群点の推定。
7.星点以外のより複雑な形状を持ち、使用頻度も少ないヲコト点について、点図と対照してみる。

【別表　星点位置一覧】は、「ノ」であれば、「ノ」の点が、それぞれの群点において、どの位置に差されているかを一覧したものである。「ノ」が文字の中央に差されていれば第一群点か第五群点、下中央にあれば第二群点、右中央にあれば第三群点、であることを示している。

テ・ニ・ハでは、同じ位置に重なって現れる群点があるが、ヲとノについては、散らばって分布しているため、点種を一意に決定しやすい。とりわけ、ヲはよく使われる第一群点・第二群点・第三群点・第五群点・第七群点がそれぞれ別の位置にあり、指標として使いやすい。

それによって、第何群点かわかれば、まずはその代表格である点種の可能性を考えてみる。つまり、第一群点であれば西墓点、第二群点であれば喜多院点、第三群点であれば東大寺点か中院僧正点、第五群点であれば円堂点、第七群点であれば宝幢院点ではないかと考える。(例えば、勧修寺で調査をしていて、第三群点の加点本であれば、東大寺点の可能性をまず考える。)その上で、星点以外のより複雑な形状を持ち、使用頻度も少ないヲコト点について、点図と対照してみる。

そのようにすれば、上に述べたような有力なヲコト点が使われている場合、その種別を判定することがおおむね可能である。

●講習会

寺院調査の前には、可能な限り、参加者を集めて事前に講習会を行う。「訓点資料入門」をもとに説明を行い、できれば訓点資料の現物を実見してもらう。それを通して、調査に関する知識、書誌的な知識、訓点資料に関する知識を共有するようにつとめている。

例えば、高野山大学図書館調査の前に行われた講習会では、以下のような資料を配付の上で、訓点資料の入門的な知識に加え、古文献資料の書誌的な扱い、文献学的な知識についても教授する。その上で調査を行うことで、初心者でも調書を取ることが可能になる。

このような段取りを踏めば、概念上の知識を現物で確かめることが出来る。また、共同で調査することで、わからないことを現物を前に質問することができる。疑問をその場で解決したり、ともに考えたり・調べたりということが可能であるため、教育効果が非常に高い。

以下、高野山調査講習会資料より摘記する。

■高野山調査講習会■

高野山調査概要と訓点資料入門、調書の取り方、古書の扱い方について、原本資料も用いながら講習する。

●調査概要

○参加者(7名)

大槻　信(京都大学大学院文学研究科・教授)(以下、掲載略)

○調査場所:高野山大学図書館

〒648-0280　和歌山県伊都郡高野町高野山385

電話:0736-56-3835　FAX:0736-56-5590

【開館時間】9:00～18:30(17:00調査終了予定)

○高野山霊宝館

期間中、時間の余裕があれば訪問予定。

開館:午前8時30分～午後5時30分

http://www.reihokan.or.jp/index.html

●調査について

高野山大学図書館において寄託書を中心に閲覧し、調書を取る。

閲覧希望書・担当は別紙の通り。(掲載略)

共同研究室にコピーを置いた『高野山大学図書館寄託本目録抄』(花野憲道・山本秀人・山本真吾・土井光祐・宇都宮啓吾、1997年)は図書館のカードから資料性の高そうなものを抄録した目録である。塔頭名略称は以下の通り。

金=金剛三昧院
光=光台院
真=真別所(真別処円通律寺)
三=三宝院
宝=宝城院
持=持明院
正=正祐寺

●調書

○【調書】

○【ヲコト点図・仮名字体表】

京都大学所蔵の原本とそれに対応する調書を用いて説明する。

●訓点資料入門(別紙)

●高野山所用のヲコト点

訓点資料を中心に調査することになる。高野山所用のヲコト点について簡単にまとめておく。

喜多院点（第二群点）法相宗興福寺
東大寺点（第三群点）東大寺・醍醐寺・高野山・勧修寺・石山寺
円堂点（第五群点）仁和寺・高野山
中院僧正点（第三群点）高野山　真興（934-1004）・中院御房明算（1021-1106）
などが中心。他に、
西墓点（第一群点）10C から、園城寺
宝幢院点（第七群点）比叡山
など天台系の加点本も見える。
鎌倉時代以降は、仮名点が多くなり、
喜多院点　東大寺点　円堂点
などがわずかに用いられるのみ。中院僧正点は衰退。（築島論考 1996：772）

●調査道具
○鉛筆
○色鉛筆（赤・紺）
消しゴムは使用しない。
○敷き紙（薄葉）
○メジャー（軟らかい素材のもの）
○訓点資料入門
○点図集
○年号索引・東方年表など
○調査フォーマット用紙
＜できれば＞
○くずし字辞典
○書誌学辞典　日本古典書誌学総説など
○訓点語辞典
○仮名字体表などの道具類
＜あると便利＞
○LED ライト（白点・角筆・部分を見る）
○ルーペ

講習会資料、以上

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　５件）

1. 大槻　信、古辞書を使うということ、2015 年 4 月、国語国文、第 84 巻第 4 号、68-87

2. 大槻　信・小林雄一・岡村弘樹、「本を伝える―高山寺本と修復―」展示会報告、2016 年 3 月、平成二十七年度高山寺典籍文書綜合調査団研究報告論集、64-94

3. OTSUKI Makoto、The Origins of Japanese Prose: “Reading” and “Writing”（日本語散文の成立　――「読むこと」と「書くこと」――）、2016 年 8 月、Acta Asiatica、111、53-74

4. 大槻　信・森下真衣、京都大学蔵『無名字書』略解題並びに影印、2016 年 9 月、訓点語と訓点資料、第 137 輯、67-113

5. 大槻　信、日本 古辭典 雜考、2018 年 8 月、口訣研究、41 号、刊行準備中

〔学会発表〕（計　３件）

1. 大槻　信、日本語散文の成立　――「読むこと」と「書くこと」――、2015 年 5 月、東方学会　第 60 回国際東方学者会議　シンポジウム「日本語研究の現状と課題」、於日本教育会館、招待講演

2. 大槻　信、日本古辞書雑考　――古辞書と日本語――、2017 年 8 月、第 53 回 口訣学会　研究発表会　於：大邱カトリック大学校、招待発表

3. Makoto Otsuki、The History of Japanese Language、2018 年 3 月、香港城市大学特別講義（Guest Lecture Series）、招待講演

〔図書〕（計　４件）

1. 大槻 信、本を伝える　――高山寺本と修復――、監修と解説、2015 年 10 月、京都大学図書館機構、1-27、http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/200755

2. 大槻 信、熱田神宮、木田 章義　他、八木書店、『熱田本日本書紀１』、2017 年、総ページ数 288

3. 大槻 信、熱田神宮、木田 章義　他、八木書店、『熱田本日本書紀２』、2017 年、総ページ数 306

4. 大槻 信、熱田神宮、木田 章義　他、八木書店、『熱田本日本書紀３』、2017 年、総ページ数 320

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：

発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者
大槻　信（OTSUKI, Makoto）
京都大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：60291994

(2)研究分担者

(3)連携研究者

(4)研究協力者
（合計１名）